又東方喀爾喀蒙古即ち外蒙古をも侵略しつゝ、餘勢を驅て清國に迫り、累年戰ふて利あらず。遂に千七百年代の半に至りて、清兵の剿滅する所と爲りしが、現時新疆西北の山野に游牧せる額魯特族は正に其の殘餘の民なりとす。

吐爾扈特族

吐爾扈特は、明末の內訌に方り、厄魯特四派に分離獨立せし時、其の汗和鄂爾勒克準噶爾汗の制を受くるを快とせず部下二十萬人を率ゐ、氈帳五萬を以て、塔爾巴哈臺を脫し後窩瓦の曠野に出てゝ、此の地を占領し、進て露領の亞斯達拉罕薩拉土夫等の地を侵し、又西部西伯利を掠めて、多波利斯克に到る。當時露國は、波蘭と戰爭中に在り。兵を分ちて之を防くと能はず。和鄂爾勒克汗機に乘じ、益〻侵略を擅にせしが竟に亞斯達拉罕に於て戰死したり。阿玉奇吐爾扈特汗と爲るに及ひ、清國に貢し、且つ露國に仕へたりしも、露國は吐爾扈特を羈束する甚しく、後には其の奉する所の宗教をさへ、基督教に改めしめんとす。是に於て吐爾扈特は、漸く露國を厭ひ、故國を慕ふの情に堪へず。會〻清國、準噶爾を蕩平す。吐爾扈特の一族舍楞遁れ來りて、說くに現今伊犂の地空虛と爲り、歸還之に據るの好機なるを以てす。加ふるに厄魯特部族の逃竄來り投ずる者、皆辭を同ふしで、歸國の利なるを說き、衆亦